

新たな水質目標に向けて白熱の討論

平成14年度第2回三春ダム水質対策検討会開催

去る2月27日（木）三春ダム管理所会議室において、表題検討会が開催されました。委員の方々に東北大学・野池達也氏、日本大学・中村玄正氏、国土技術政策総合研究所・安田佳哉氏、土木研究所・鈴木稔氏・山下尚之氏、東北地方整備局・高橋聡氏を迎え事務局の、伊藤三春ダム管理所長・佐々木水質係長等を交え白熱の討論がありました。検討内容は下記のとおりです。

1. 水質監理基本計画（案）の見直しについて

事務局 「現在、三春ダムではさくら湖の水質目標を流域の人達と共に考え目標を達成するにはどうすべきかを考えております。」

委員 「達成が非常に困難と思われる環境基準に替えて目標値としたのは観点としては良いと思われま。ただし、地域住民に如何にして参加してもらうかを考えて行かねばならないでしょう。」

2. ダム貯水池の水質

事務局 「当初の目標値であったCOD5mg/l及び総リン0.04mg/lは下回っており良好であると思われま。」

委員 「先程の監理基本計画でも話があったよう、さらなる努力目標に向かって邁進するよう頑張ってください。」



3. 法目結曝施設の運用とその効果

事務局 「昨年同様、散気水深は最も深い位置から散気し通日運用を心がけました。今後の方法としては時間運転による省コスト化、及び散気位置変更による一次躍層の破壊等が考えられます。」

委員 「出来る限りの水質対策を行っていることは分かりました。省コスト化というのは必要なことでは。現在のアオコの発生状況を鑑みた場合、時間停止したり、曝気水深を浅くするのは大発生に繋がる恐れもあるでしょう。しかし三春ダムだけでなく、水質対策を行わなければならない他ダム全体を考えた場合は非常に有益と思われま。」

4. 出水時の水質挙動と流動制御

事務局 「今年度については大きな洪水が発生し、特例の操作（全量カット）を行ったことから貯水池内リン濃度は高めに推移しました。そのため、その後の日射・水温によってはアオコの発生・集積が部分的に確認されました。またその後の2出水について流動制御を試みましたが結果、常用洪水吐きを使用している時間帯が短い場合リン収支は低い値となりました。その事から水質対策としての常用洪水吐きの使用を、三春ダム操作規則との兼ね合いを考慮しつつ今後の検討事項としていきたいと思ひます。」

委員 「水温・日射等の影響から優先する藻類の変遷を確認し、どの藻類にはどの項目が大きく影響するのかを確認していただきたい。出来れば、もっと細かい頻度での藻類の調査が有効と思われま。常用洪水吐きの使用については、効果が期待できるのなら今後の検討に期待したい。」

5. まとめ及び今後の検討方針

事務局 「対策設備は一定の効果を上げており今年度調査結果もそれを裏付ける結果となっています。今後はより良い『水質保全設備操作規則』の策定に向け、今年度調査で不足している部分の補足調査を行いつつ、本日委員の方々から頂いた貴重な意見を参考に来年度以降の対策に活用していきたいと思ひます。」



あなたにとっての“仕事”とはなんですか？

桜中学校「職業シンポジウム」

2月24日（月）三春町立桜中学校において「職業シンポジウム」が開催されました。

様々な分野で活躍する人の話を聞き、将来の進路や働くことへ意識を高めるために開催されているものですが、今回は小野高校美術教諭の日下部正和氏、ヨークベニマル富久山店店長の安瀬良一氏、そして伊藤三春ダム管理所長がシンポジストとして講師を務めました。



生徒からの「充実していると感じるのはどんな時ですか？」という質問には「大変な事やイヤなことがあってもそれを乗り越えたり、その中で楽しい事を見つけられればとても充実感が得られます。また仕事を通して色々な人と出会い、色々な体験をする事も出来ます。まず自分の興味のあること（好きなこと）から始めてみてください。」というお話がありました。生徒の皆さんそれぞれに、何か少しでも感じるものがあれば良いと思います。

一日土研に参加して

2月6日（水）に仙台国際センターで、一日土研が開催されました。一日土研とは、国・地方公共団体・公団等の現場技術者が日頃直面している土木技術上の問題を解決する事及び技術の向上を目的として、独立行政法人土木研究所が主催したものです。

会場では、技術相談として、河川・ダム・砂防・道路・材料・地盤・施工等に関する新技術や動向について土木研究所研究員が説明を行います。説明後は、聴講者から多くの質問事項があり、活気あふれるものでした。また、別会場では、ポスターセッションを行っていて、土木研究所及び東北の各事務所での新技術についての紹介を行っていました。三春ダムは、このポスターセッションに、ダム下流土砂還元実験について出展しました。参加者の中に三春ダムのポスターを興味深く見ている方もいて、三春ダムで行っている土砂還元実験に対する関心の高さが伺えました。



三春ダム水源地域ビジョン策定に向けて

「地域の意見を聞く会」を開催

三春ダム水源地域ビジョンの策定については、前号の管理ニュースでも紹介しているところですが、ビジョン策定への第一歩としての「地域の意見を聞く会」がスタートしました。現在のところ、大越町と白沢村の2カ所において開催し、地域に関心がある方、地域の活動家、地域の産業・教育・文化などあらゆる面の方々に集まっていただき、いろいろな意見を聴くことができました。出席した皆さんからは積極的な意見が相次ぎ、水や河川に対する想いや、ここ数十年における自然環境・生活環境の変化、今自分たちが何を問題視しそのためにどんな活動をしているのかといった、地域の生の声を聞くことが出来たことは、水源地域ビジョンを策定する上で大きな一歩を踏み出すことが出来たと感じております。

大越町においては3月3日（月）午後7時から9時まで、白沢村においては3月4日（火）午後1時から3時までの集まりでしたが、話は尽きる事が無く、2時間があっという間に過ぎました。これからも引き

続き、各地で「地域の意見を聞く会」を開催していきます。より多くの地域の方々に参加していただき、活発な意見を出していただくことで、100%の地域ビジョンとなるよう、三春ダム管理所においても支援していきます。



『産業』～大滝根川流域の観光～

去る2月13日（木）三春町自然観察ステーションにおいて、第15回大滝根川流域勉強会が開催されました。今回のテーマは「大滝根川流域の観光」で、講師には「三春の里田園生活館」の佐藤佳亮氏よしあきを迎えて講話を頂きました。

はじめに三春の里田園生活館の概要や、大豆を使った製品開発など、これからの課題についての説明をして頂きました。創業までのあらすじのお話の中では、地域の昔の生活を再現出来ないかということで、昔ながらの大農家をイメージした田園生活館を目指したそうです。



←「地元の人が集まらない所は他からも集まらない」と佐藤氏

続けて、三春町自然観察ステーションの山口氏から、県内の観光地集客状況に関するデータの紹介がありました。田村地方（福島県中部）の季節別観光客入込数を見た場合、冬期に大きく下がっていることが確認できました。また田村地方には、冬に集客できるような観光地やイベントというものが見あたらない、という現実を再確認しました。しかし、参加者からは集客イベントとして実にユニークな意見（熱気球での観光や遊覧船、イルミネーションなど）や、安全面を考えると実現が難しいのでは？という意見も出ておりました。

最後に、参加されていた福島交通(株)の鈴木茂氏から、滝桜や周辺の桜の名所についてのお話を流域マップを使って説明して頂き、盛り上がりを見せつつ、終了いたしました。



次回の流域勉強会は、3月13日（木）「大滝根川流域の林業について」です。

hotv 一息

僕の闘病日記 by 腰椎ヘルニア編（後編）
水質係 斎藤 秀揮

第3章 闘病生活

手術の翌日から猛烈な激痛と激しい悪寒、発熱。食欲なんて沸くわけもない。術後1週間はこのような状況が続き、私本人がいったいどうなってしまうんだろうと考え出した8日目、昨日までの痛み・発熱が嘘のように消えてしまった。（神様っている）その後1週間はベッドの上での生活で、天井だけを眺める生活。天井のシミの数まで分かっってしまうってば。

術後2週間目からは歩けるようになり（といっても、現在も使用している固いコルセットを巻きつつ院内だけですが）日々回復していくのが実感できた。まっ、元気になると悪さがしたくなるもので、院内でいただくアルコールは非常においしかった。

第4章 退院そして復帰

術後2ヶ月が過ぎた11月20日。今日は退院の日。長かった入院生活。「ふっ・・・、太陽が眩しいぜ」（実は結構歩いていた）いったん帰宅後、福島支所に挨拶へ、職場復帰は12月5日に決定。ただし、支所勤務。俺的には、即三春に戻りたかったのだが、医者の一言「術後3ヶ月程度は長距

離の通勤は控えた方がよい」とのことので、福島勤務に決定したのだ。実は一番辛かったのが、この1ヶ月弱の福島勤務であった。支所勤務から約5年も離れた身には、何をどうしたらいいのか全く勝手が分からない。支所勤務が長くなるのならば一生懸命覚えようとするのだが、何分にも期間限定20日間のみだもの。借りてきた猫ほどおとなしくはしていなかったが俺としては無口だったかも・・・。年が明けて管理所に復帰したわけだが、俺の中ではこれが本当の復帰でした。

後記

痛みを感じたら長いこと我慢はしないこと。俺の場合時々痛みがありながら、しばらくすれば痛みが和らいでいたため、病院に行くのが遅れ結果的には手術となってしまったわけだ。長期の病休で周りの皆様にかけた迷惑は数知れず、本人はいまだにコルセット着用で動きは大きく制約されています。本当に激動の平成14年でありました。最後に周りの皆様には本当に御迷惑及びご心配をお掛けしたことをお詫びし本章を閉じさせていただきます

ミーちゃん&ハル君の
ちよつとからくち
三春ダム

みなさんはじめまして。ミーちゃんです。
今月はハル君にかわってわたしが質問を
かんがえてきたの。よろしくね。みんなも
聞いてみたい質問があったら、ホームペー
ジなどを使ってどんどん聞いてみてね。



緑のダムが整備されれば三春ダムのようなコンクリートのダムは要らなくなるの？



伊藤管理所長

「緑のダム」というのは、森林のことだね。
でも残念ながら今のダムの代わりに、森林
整備を行えばよいというものではないよ。

でも緑のダムを整備してダム建設をやめよう、という人もいるわ。

確かに森林は、土砂流出防止や、景観・レクリエーション機能はとても重要で価値の高いものだよ。だからこれからも森林は守っていかねばならないんだ。でもそれだけではダムの効果は期待できないんだ。

どうして緑のダムだけではだめなの？

森林があることによって規模の小さい洪水は流れてくる水の量が少なくなるといえるんだ。でも大雨の時は、森林に降った雨のほとんどが川に入ってくることで観測結果からわかってきたんだよ。



それじゃあ、森林があれば山に水が蓄えられて濁水になりにくいってのはなしはどうなのかしら？



森林の「水源涵養機能」については色々な説があり、森林整備によってどの位効果があったかを評価することは難しいんだ。逆に森林自身も植物だから水が必要なんだ。だから雨が降らない日が長く続いた時は、森林が水を使うから河川への流出量が減少したという観測結果があるんだ。

緑のダムはあんまり役に立たないってことなの？



そうじゃないよ。治水や利水の計画はあくまで現在のよう豊富な森林があることが前提なんだ。森林とダムや堤防などがそれぞれ役割を果たすことで、はじめて洪水や濁水の被害を防ぐことができるんだ。だから森林は保全しなければならないんだよ。

みんなそれぞれに役割があるってことなのね。また来月も質問をもってきますね。



水源涵養機能・・・森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。

ダム資料館からのお知らせ

三月一日(土)から三月三十日(日)の間、郡山市舞木町の上石蒼溪氏と三春町貝山の渡辺勉士氏らによる「書展」を開催中です。たくさんのお客様のご来場を、心よりお待ちしております。

月刊「こおりやま情報」3月号に「さくら湖セット」がのっています。

チェックしてみてね！→



2月のダム見学

- 2月4日(火)、5日(水) 三春町立三春小学校
- 2月13日(木) 神奈川県津久井町水源地域対策研究会
- 2月25日(火) 福島県双葉郡楢葉町議会

自然観察ステーションからのお知らせ

- 3月14日(金)、22日(土)、28日(金)
☆木星と土星を見よう(星を見る会)☆
 - 3月23日(日) ♣ 春の野山に出てみよう ♣
- 三春町自然観察ステーション(0247-61-1546)

編集後記

阿武隈川から10分程の自宅の上空から、朝早く白鳥の鳴き声が聞こえました。春の気配を感じてシベリアへと飛び立ち始めたのでしょうか？ 皆さんはもう春を感じましたか？ 私は、先日、暖かな日差しが降り注ぐビニールハウスの中でみずみずしく真っ赤に色づいた萼を自分で摘んで口いっぱい頬張り、春を実感してきました。甘酸っぱい風味の萼は出会いと別れの春の雰囲気にも似ていると思いました。平成14年度も今年にて最後となります。来月からはちょっと新しくなったスタッフで作っていきますので、来年度も宜しくお願いします。(神内)

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を

お待ちしております。

〒963-7722 福島県田村郡三春町大字

西方字中ノ内403-4

TEL 0247-62-3145 FAX 0247-62-3170

ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>